

八潮高校・八潮南高校生が編集しました

八潮市の守り手

人を助ける市民の味方消防署

8月5日、八潮高校と八潮南高校の生徒8人で、八潮市消防署に取材に行きました。そこでの体験やお話を紹介します。

消防署について



消防署には94人の職員がおり、そのうち66人が交代で24時間勤務をしています。消防隊員は、119番通報を受けて出動し、消火活動や避難誘導、救命活動を行います。出動のないときは、消火栓の点検や救急救助などの各種

災害研修



災害研修では、東日本大震災のビデオを視聴しました。若者向け広報編集委員のメンバーとして消防署に行き東日本大震災の映像を見るまで、あのと感したかと思つたことを忘れていました。映像は、東北で地震があったというニュースから始まり、次に津波、そして福島第一原発の事故という内容でした。東日本大震災によって家が流され、何もかも失ってしまった方々は、電灯もない寒い

訓練を行い、いざというときのために備えています。

また、市民の方へ向けたAED講習会も行っています。

昨年度の火災件数は13件で今までの最も少ない件数でした。それとは反対に、救急は年々増加しています。その中の6割が軽傷です。

本日に救急車が必要な方のため、皆さんも確認をしてから呼ぶようにしましょう。

屋根の上で、毛布1枚で過ごしたそうです。被災した方々が夜空を見上げると、そこには無数の星がちりばめられていたといいます。それを見たとき、みんな悲しみの涙を流したそうです。そのような中、消防隊員や自衛隊員は、危険を顧みず、被災した方々の救助にあたっていました。私は救助を行った消防隊員や自衛隊員を日本の誇りだと感じました。

これから私たちにできることはただ応援するだけでなく、東北の復興のために募金活動やボランティア活動を行っていくことだと思います。私たちも機会があれば積極的に参



消防 & 救急

体験してみました



体験1 救命

救命は、周囲の安全を確認し助けを呼んだあと、胸骨圧迫、人工呼吸を繰り返します。また、AEDが使用できる場合は、AEDの指示を聞き必要であれば電気ショックを行い、再び胸骨圧迫を行います。周囲の到着を待ちます。周囲



に人がいる場合は声を掛け合い、協力することも救命を行ううえで大切なポイントです。AEDは自動体外式除細動器といい、心電図の解析を自動で行い、ショックの必要性を判断してくれるため、私たちが簡単に使うことができます。電源を入れるとAEDが指示をするため、スムーズに処置を行うことができました。



今回は練習だったので、一連の流れを焦らずに行うことができましたが、実際に誰かが目の前で倒れたりした場合は練習のときのようにはいけません。しかし、周りで見ていただけではなく、

体験3 ロープ渡過

ロープ渡過では、命綱をつけて、消防士の方が一番楽で簡単だと言うチロリアンという渡り方に挑戦しました。

地上から綱までの高さが7メートルで、意外と高く、思っていたより怖かったです。



渡る前は、お手本を見せてくれた消防士の方が、スムーズに渡っていたので簡単そうだと思っていました。しかし、いざ自分がやってみると見た目以上に筋力が必要で、20メートルの綱がとても長く感じました。体験した人の中には、最後まで渡りきれなかった人や、翌日に筋肉痛になった人もいました。



体験4 はしご車

消防署にはさまざまな自動車がありますが、その中で最も大きい自動車のはしご車です。

このはしご車は20トン近くあり、地上40メートルまで、はしごを伸ばすことができます。一般的なマンションで表示と13階に相当する高さです。はしごには3人乗りのバスケットが付いていて、高所での消火や救助の際に活躍します。はしごの操作は、運転席だけでなく、バスケット上でもできます。

はしご車が出動する機会は少ないようですが、さまざまな火災現場にすぐ出動できるので、もしものときは安心できます。



実際のバスケットに乗ってみると、思ったより狭く感じました。バスケットが上昇し始めるとあつという間に地上にいる人が小さく米粒ほどになりました。火事るとき、こんなに高く限られた場所での消火と救助を行う消防士の仕事は、とても危険で勇気のいる仕事だと改めて思いました。

体験2 放水

放水は、ホース自体が重く、消防士の方に後ろで支えてもらいながら行いました。それでも、水が出るとその圧力で身体がのけ反ってしまいました。後ろの方でホースに余裕をとって、圧力を逃がすことがコツというのを初めて知って驚きました。

